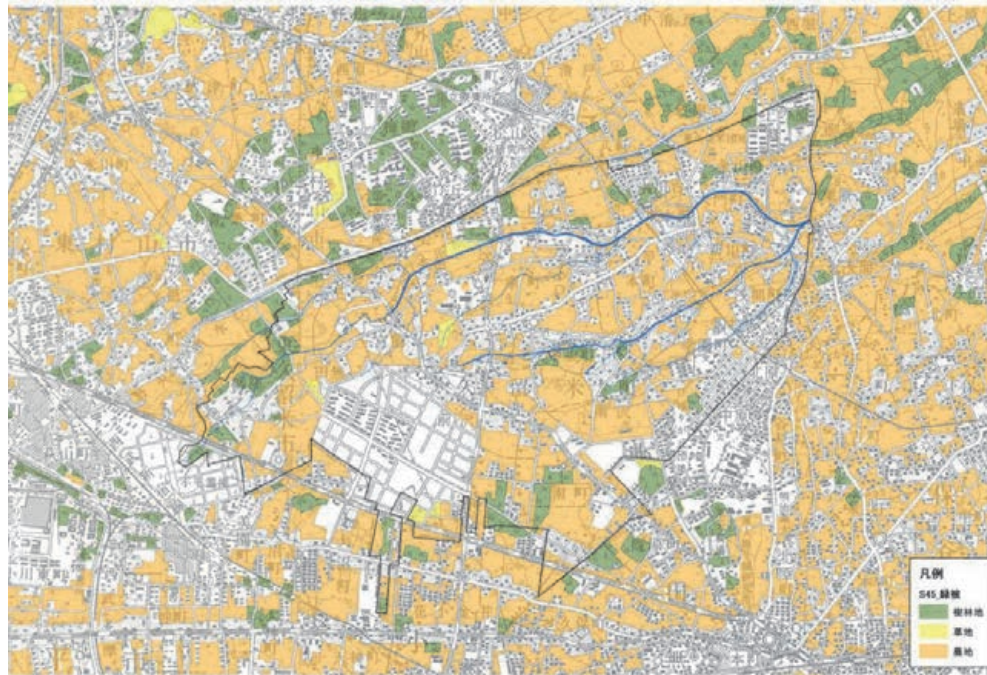


資料5 生きものの現況

1 市内の緑(生きものの生息・生育地)の変化

生きものの生育・生息地である市内の緑(樹林、農地、河川など)の割合は、1970年代には市内の約4割でしたが、2000年代には約3割に減少し、分散化がすすみました。動植物の確認種の変化は、緑の減少や雑木林の森林化など、土地利用の変化が一因と考えられます。



昭和45年緑被



平成16年緑被

市内の土地利用の変化(上図:1970年代、下図:2000年代)



2 生きものの確認状況

これまでに市内及び近隣自治体では生きものの分布を調べる調査が行われてきました。

平成23年から令和3年にかけて実施された調査(※)の結果、現在の東久留米市及び周辺の生きものの分布(確認)状況は、以下のとおりであることが分かりました。

※市内で、東京都などによって平成26年度までに実施された現地調査や「第二次緑の基本計画の中間見直し」時に実施された調査結果、平成30年度以降の市民観察による確認結果や、東久留米市が令和3年度に実施した現地調査や既存資料調査の結果に基づきます。また調査によって、調査範囲や対象とする生きものは異なります。

既存資料一覧

資料名	発行元
平成 23 年度保全地域の生物多様性保全のための自然環境調査委託 (南沢緑地保全地域) 報告書 (4/7)	東京都環境局
平成 24 年度東京都保全地域における生物多様性保全のための自然環境調査委託 (野火止用水歴史環境保全地域) 報告書 (1/12)	東京都環境局
平成 24 年度東京都保全地域における生物多様性保全のための自然環境調査委託 (小山緑地保全地域) 報告書 (5/12)	東京都環境局
平成 24 年度東京都保全地域における生物多様性保全のための自然環境調査委託 (柳窪緑地保全地域) 報告書 (10/12)	東京都環境局
平成 26 年度東京都保全地域における生物多様性保全のための自然環境調査委託 (南町緑地保全地域) 報告書 (2/14)	東京都環境局
平成 26 年度東京都保全地域における生物多様性保全のための自然環境調査委託 (氷川緑地保全地域) 報告書 (4/14)	東京都環境局
平成 26 年度東京都保全地域における生物多様性保全のための自然環境調査委託 (前沢緑地保全地域) 報告書 (7/14)	東京都環境局
平成 26 年度東京都保全地域における生物多様性保全のための自然環境調査委託 (東久留米金山緑地保全地域) (8/14)	東京都環境局
都市内緑地における生物多様性に関する調査業務報告書(向山緑地公園)	国土交通省 国土技術政策総合研究所
黒目川整備工事に伴う河川環境調査委託報告書(その 7)	北多摩北部建設事務所
落合川整備工事に伴う河川環境調査委託報告書(その 12)	北多摩北部建設事務所
黒目川整備工事に伴う河川環境調査委託報告書(その 13)	北多摩北部建設事務所
令和 2 年度落合川整備工事に伴う河川環境調査委託報告書(その 17)	北多摩北部建設事務所
2015 年度自由学園最高学部卒業研究「自然と人とのかかわり」	自由学園
2015 年度自由学園最高学部 「自然誌・環境」学園特別実習グループ記録	自由学園
2016 年自由学園樹木調査	自由学園
2015~2016 年度観察 自由学園初等部(小学校)資料	自由学園
大正末期に出版された Florula Musashinoensis (武蔵野植物目録)の再検討	武蔵学園
清瀬の植物 調査報告	清瀬の植物を守る会
野鳥は友だち 東久留米バードウォッチングの会 HBWS 創立 20 周年記念誌	東久留米バード ウォッチングの会
東久留米団地移管公園他基本設計雑木林の再生・活用検討報告書 (樹木調査・林床植生調査・生きもの調査)	UR都市機構
東久留米の野草	東久留米市教育委員会
28. 東久留米市生き物調査委託報告書(平成 28 年度)	東久留米市
東久留米市第三次緑の基本計画策定支援業務及び生きもの調査委託生きもの調査報告書 (令和 3 年度)	東久留米市
市民観察によるモニタリングデータ	東久留米市

(1) 確認種の概要

生きもの調査で確認された市内の種は、第二次緑の基本計画の中間見直し時に確認された2,215種に新たに316種が追加され、計2,531種になりました。

水辺環境で見られる生きものをあげてみると、生きていくのに水辺を必要とする両生類は、産卵から成体に変態するまでの時期を水辺で過ごすアズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ウシガエルの3種のみでした。アズマヒキガエルとニホンアマガエルは日本の在来のカエルですが、ウシガエルは水辺の小動物や在来のカエル類も食べてしまうため、特定外来生物に指定されています。

また、魚類では、ドジョウ、ナマズ、アブラハヤ等、昔から市内に生息していた種に加え、タカハヤ、ドンコやカワヨシノボリ、カワムツといった、本来は関東地方に生息していない「国内外来種」と言われる魚類も確認されています。

東久留米市内の生きもの確認種数（平成23年～令和3年）

分類群	植物	哺乳類	両生類	爬虫類	昆虫類	鳥類	魚類	底生動物	その他無脊椎	合計
総確認種	1,273種	10種	3種	7種	943種	92種	33種	162種	8	2,531種
希少種	106種	-	2種	5種	18種	37種	14種	8種	-	190種
外来種 (特定外来生物)	4種	1種	1種	-	-	2種	1種	-	-	9種

※確認種数は累計であり、毎年度確認されているものではありません。

市内でみられる主な自然環境ごとの、主な生きもの確認種は以下のとおりです。

自然環境ごとの主な確認種

主な自然環境	主な確認種
水辺（川沿い）	カワチシャ、ナガエミクリ、ツリフネソウ、ミゾソバ、カワセミ、マガモ、ハクセキレイ、ダイサギ、コサギ、イシガメ、ハグロトンボ、ホトケドジョウ、シマドジョウ、ドジョウ、アブラハヤ、オイカワ 等
水辺（湧泉地）	ナガエミクリ、ツリフネソウ、セキショウ、カワセミ、ハグロトンボ、シオカラトンボ、アブラハヤ、ホトケドジョウ 等
雑木林	キンラン、キツネノカミソリ、ヤマユリ、ミズヒキ、アオゲラ、ウグイス、アオジ、エナガ、アオダイショウ、カブトムシ、アブラゼミ 等
公園や住宅地など（人の生活に隣接した場所）	カントウタンポポ、スミレ、ホトケノザ、ツグミ、オナガ、シジュウカラ、メジロ、ヒヨドリ、ムクドリ、モズ、ニホンカナヘビ、ショウリョウバッタ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、ベニシジミ、ニイニイゼミ 等



スミレ



ベニシジミ



オイカワ（オス）

東久留米市でみられる生きものの例



コラム15

東久留米市の生きもの —武蔵野台地今昔、周辺地域との比較—

東久留米市の植物相を近隣市との間で比較すると、東久留米市(12.9km²)では1,273種、隣の清瀬市(10.2km²)では1,025種の植物が確認されています。両市で確認された植物の他に、東久留米市でよくみられるナガエミクリのように、清瀬市では確認されなかったものがあります。一方、清瀬市のみで確認された植物には、狭山丘陵を水源とする柳瀬川によって運ばれてきたと考えられる山地性の植物や広い河川敷などに生育する湿地性の植物があります。両市の立地の特色が植物相に現れています。

なお、清瀬市内では、この30年くらいの間に消滅した植物60種が報告されています。主に、在来種といわれる、古くから地域の環境のなかで生態系をつくってきた種類です。東久留米市内でも、以前より生育範囲が狭くなり、個体数が減少してきている在来種があります。例えば、河畔林に見られるハンノキは清瀬市では柳瀬川の崖線の雑木林から湿地にありますが、東久留米市では自生のは見られなくなり、新たに植栽されています。白い花を房状につけるウワミズザクラは清瀬市では崖線に、イヌザクラは雑木林で見られますが、東久留米市ではごくわずかになりました。都心に近い江古田周辺の100年前の記録(武蔵学園)によるとハンノキ、ウワミズザクラ、イヌザクラともに記録されていて、現在より分布が広がったことがわかります。分布域の減少による個体数の減少は、遺伝的多様性の減少につながり、環境の変動に適応しにくくなり、消滅しやすくなると考えられています。

「コラム3 我が町東久留米が大好き」に書かれているように、ムサシトミヨが生息していた1950年頃の落合川には、白い花をつけるバイカモが生育していましたが、汚水が流入するようになって最初に消えていったとのこと(藤田1978)。なお、100年前の江古田周辺の記録には、流れる湧水域の植物、バイカモは記されていません。

さらに、近隣市(清瀬市、東村山市、西東京市、東大和市、武蔵村山市)との比較の結果、黒目川下流部と空堀川上流部の魚類で約5割、落合川下流部と空堀川上流部の植物で約4割の種が共通であることなど、東久留米市内には、近隣市と対応した自然環境と生態系が機能していると推察され、エコロジカル・コリドーとしての役割を果たすことが考えられます。

参考文献：藤田朋子(1978年)「東久留米の野草」東久留米市史料 No.5 東久留米市教育委員会 (p15 4. 流水中と水辺の植物に、バイカモの記述)
清瀬の植物を守る会(2010年)「清瀬の植物 調査報告」東京都清瀬市発行
渡邊-東馬加奈・白井亮久・福田泰二(2022年)「大正末期に出版された Flora Musashinoensis (武蔵野植物目録)の再検討」
武蔵高等学校中学校紀要 第6号 65-114.
東京都北多摩北部建設事務所(2015年)黒目川整備工事に伴う河川環境調査委託(その7)報告書
東京都北多摩北部建設事務所(2015年)落合川整備工事に伴う河川環境調査委託(その12)報告書

資料編



ハンノキ



ウワミズザクラ(果実)



イヌザクラ(房状の白花)

(2) 希少種の確認状況

市内では、以下に示す190種の希少種(※)が確認されています。

※希少種とは、環境省レッドリスト(2020年版)、東京都レッドリスト(2020年版)に掲載されている種を指します。

分類	主な希少種	
植物	ミズニラ、ショウブ、アマナ、キンラン、ギンラン、エビネ、キツネノカミソリ、ミクリ、ナガエミクリ、イカリソウ、ニリンソウ、イチリンソウ、サラシナショウマ、タコノアシ、ミズ、ハンノキ、ヒカゲスミレ、クサレダマ、イワウメツル、カワチシャ、オミナエシ 等 (計 106 種)	
動物	哺乳類	(確認なし)
	両生類	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル (計 2 種)
	爬虫類	ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ (計 5 種)
	昆虫類	ハラビロトンボ、マユタテアカネ、マイコアカネ、ミヤマアカネ、リスアカネ、クルマバッタ、ヒオドシチョウ、コシロシタバ、ヒラタクワガタ、ハナムグリ、ウバタマムシ、ヤマトタマムシ、ハッカハムシ、キボシトックリバチ、モンズズメバチ、キオビクモバチ 等 (計 18 種)
	鳥類	オシドリ、ヨシガモ、ホシハジロ、カイツブリ、ゴイサギ、チュウサギ、コサギ、バン、クイナ、カッコウ、コチドリ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、アオバズク、カワセミ、チョウゲンボウ、サンコウチョウ、モズ、オナガ、ヒバリ、セグロセキレイ、ホオジロ 等 (計 37 種)
	魚類	ギンブナ、ヤリタナゴ、オイカワ、アブラハヤ、ニゴイ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ホトケドジョウ、ミナミメダカ、オヤニラミ、アマチチブ、トウヨシノボリ、ジュズカケハゼ、ムサシノジュズカケハゼ (計 14 種)
底生動物	コシダカヒメモノアラガイ、ヌカエビ、サワガニ、モクスガニ、ヤマサナエ、アオサナエ、ヤマトクロスジヘビトンボ、ミズバチ (計 8 種)	



カワチシャ



サワガニ



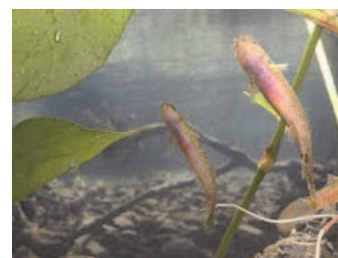
アブラハヤ



ナガエミクリ



ニホンカナヘビ



ホトケドジョウ

東久留米市内でみられる希少種の例



(3) 外来種(特定外来生物)の確認状況

市内ではこれまでに、植物ではアレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクの4種、哺乳類ではアライグマの1種、鳥類ではガビチョウとソウシチョウの2種、両生類ではウシガエルの1種、魚類ではカダヤシの1種、合計9種の外来種(特定外来生物※)が確認されています。外来種は生態系を攪乱する懸念があるため、その取扱には注意が必要です。

※特定外来生物とは、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)」で定められる、もともと日本にはいなかった生きもの(外来生物)であって、生態系、人の身体・生命、農林水産業などに影響を及ぼすおそれがあるものとして特に指定された生きものです。



アレチウリ



オオフサモ



オオカワヂシャ



オオキンケイギク



アライグマ



ガビチョウ



ソウシチョウ



ウシガエル



カダヤシ

東久留米市内で確認されている外来種(特定外来生物)

市内では、以上にあげた9種の外、令和5年に特定外来生物の指定が検討されているアカミミガメとも、市内各地の河川や池で確認されています。



アカミミガメ



アメリカザリガニ